

## あとがき

「東山梨教育研究」も昭和38年に第1号を発行して以来、発刊51年となりました。

昨年は小学校、そして本年4月、中学校でも「生きる力」の育成を基本理念にする新学習指導要領が全面実施となりました。新学習指導要領の下、いかに子どもたちに「生きる力」を身に付けさせていくかは、日々の教育活動に掛かっています。各校の先生方の毎日の指導の蓄積によって、「生きる力」は着実に育まれていることと信じているところであります。そして、新学習指導要領の全面実施に当たり、それぞれの子どもの現状・背景を見据えつつ、効果的な指導、学級経営の改善に向けて更に検討を進め、実践した成果をここに「東山梨教育研究 第51号」としてまとめることができました。

さて、国内に公表されたPISA調査の結果では、我が国の子どもたちの読解力に一定の成果が得られましたが、その読解力の中でも「情報へのアクセス・取り出し」は良好であるものの、「統合・解釈」、「熟考・評価」に関する力には依然として課題があることが明らかになりました。今後、各教科等の指導の中で、事実を正確に理解し、その事実を自分の知識や経験と結び付けて、多様な観点から検討し、考えをまとめるといった学習活動や、集団の中でお互いの考えを伝え合い、その考えの違いを認め合う中で、自らの考えや集団の考えを発展させていく学習活動が重視されています。さらには、知識や考え方を一斉に指導するような授業だけでなく、一人一人の子どもの能力や特性に応じた学びや、子ども同士が教え学び合う協働的な学びにつながる授業を積極的に取り入れることが求められています。総合的な学習の時間における学習活動では、実社会・実生活との関わりや体験活動を重視して探究的な学習活動とし、他者と協同して課題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめ・表現する学習活動等の充実も求められています。

個人は他者や社会などのかかわりの中で生きるものでありますが、その一人一人には興味や関心、持ち味に違いがあります。変化の激しい社会の中では、困難に直面することも少なくないことや高齢化社会での長い生涯を見通した時、他者や社会の中で切磋琢磨しつつも、他方で、読書などを通して自己と対話しながら、自分自身を深めることも大切であります。

知識基盤社会化やグローバル化社会において、自己責任を果たし、他者と切磋琢磨しつつ一定の役割を果たすためには、基礎的・基本的な知識・技能の習得やそれらを活用して課題を見だし、解決するための思考力・判断力・表現力等が必要であり、知識・技能は、陳腐化しないよう常に更新する必要があります。

生涯にわたって学ぶことが求められている今、学校教育はそのための重要な基盤であるのです。これからの社会に夢をもち続け、力強く生き抜く子どもたちのためにも、教職員一人一人の資質向上はもとより、全教職員が一丸となり創意工夫を重ねて教育活動の充実を目指していきたいと思います。

終わりにになりましたが、「東山梨教育研究 第51号」の発刊にあたり、お忙しい折に玉稿を賜りました山梨市教育委員長様、並びに東山梨教育協議会長様をはじめ、貴重な原稿を寄せられた諸先生方、各市教育委員会の財政面でのご援助に対し心より感謝申し上げます。なお、本冊子の表紙は教育協議会「図工・美術部会」の小澤朋子先生（山梨南中学校2年 伊従 優里さん作）にお願いしました。ご協力ありがとうございました。

### 【編集委員】

山梨市教育委員会教育長	丸山 森人
甲州市教育委員会教育長	保坂 一仁
峡東教育事務所長	楡井 俊彦
峡東教育事務所指導主事	宮澤 洋一
東山梨教育協議会事務局次長	梶原 貴
東山梨教育協議会研究推進委員長	堀井 勝彦
山梨支会研究推進委員長	飯室 林
山梨支会研究推進副委員長	岩下 城
甲州支会研究推進委員長	古屋 岳治
甲州支会研究推進副委員長	平井 成二

発行日	平成25年4月1日
発行責任者	東山梨教育研究 編集実行委員会
編集責任者	東山梨教育研究 編集実行委員会事務局
印刷所	昭和堂印刷